

## 第六章 ワールドワイドウェブ (WWW)

(本章は読者がすでに WWW でブラウズしたことがあると仮定していますので、まだ一度もインターネットエクスプローラ (Internet Explorer) やネットスケープ (NetScape) を使ったことがない人は本章を始める前に試して下さい。

### 1. WWW をブラウズする

WWW がインターネットだと勘違いされるほど WWW は人気があります。事実、今日のインターネットの人気の原動力が WWW であることに疑いの余地はありません。WWW のおかげで世界中からあるとあらゆる種類の膨大な量の情報が流れ込むようになりました。従来、一般大衆はテレビ、ラジオ、雑誌などの情報発信の専門家 (マスメディア) から発信される情報の受信者でした。しかし、WWW は一般大衆が「ホームページ」を作ることができるようにすることで情報の発信者に変えてしまいました。一個人が作ったホームページや WWW サイトも大企業が作った大規模なホームページも情報伝達能力という意味においては全く違いがありません。

WWW はテキストだけでなく、音声や画像も自由に扱うことができるため、情報を色々な形で発信できます。また、WWW は受信側が使っているコンピュータの機種 (Windows, Macintosh, UNIX, LINUX など) に関係なく情報を受けとることができます。(これを Platform independent と言います。) WWW はこの機能を HTML (Hypertext Markup Language) と呼ばれるコンピュータ言語をつかうことで可能にしています。

WWW は我々が手に入れることができる情報の質も根本的に変えました。従来のマスメディアを通して得られる情報は母国語者を対象にしているとはいえ内容的にも言語的にもマスメディアに載せるためのフィルターがかかっています。WWW は一般人が直接情報発信者になるため、フィルターは一切かかりません。これは WWW を魅力的な情報通信媒体にすると同時に、教育者の頭を痛める原因にもなっています。WWW 上に存在する情報とはこのような社会的に適当でない情報をも含めたものなのです。さらに国境がないため、それぞれの社会の中で規定されている倫理感も歯止めをかけることができません。

WWW が外国語教育に及ぼす影響は絶大です。WWW は学習対象になっている言語を話している国や人々の言語情報や文化情報をととても身近なものにしました。教師にとっては WWW 上の生きた情報を利用することで様々な言語学習のためのアクティビティーを作ることができますし、学生は学習した言語能力を利用して WWW を探索し生きた情報を収集することができます。(Warschauer 1994) また、WWW を利用したクリップアートや写真や電子辞書などの学習用リソースサイトの数も増えています。教師が利用できる教材を無料で提供しているサイトもあります。参考までに日本語教育用 AV リソースサイトのリストを作り、閲覧できるようにしてあります。

(<http://www.sla.purdue.edu/fll/JapanProj/Resources>)

学生が答えを入力できるように設計されているインターアクティブな練習用の WWW サイトも盛んに作られています。このような練習を WWW 上で実現させることの利点と

しては (1) 学習者が使っているコンピュータの機種を選ばない, (2) 学習履歴をサーバーに残すことができる, (3) 内容の更新が学習者全員に対し簡単にできる、などがあげられます。

WWW はこれからもどんどん発達していく情報通信媒体です。

## 2. URL (Uniform Resource Locator)

URL は WWW で使われているアドレスシステムです。例えば、パデュー大学の WWW サイトの URL は `http://www.purdue.edu` です。この URL は大学全体のホームページを呼び出し、その下に位置するページは `http://www.purdue.edu/academic` のように「/」(スラッシュ) で区切って表されます。ですから、大きな組織のホームページは下に行くほどアドレスが長くなる傾向があります。また、ISP が各ユーザに用意するホームページのスペースは `http://www.homenet.or.jp/~htanaka` のようにユーザ名の前に「~」がよく使われます。

URL というとすぐに「`http://`」が思いがちですが、実は他にも種類があります。よく使われるものに「`ftp:`」や「`mailto:`」などがあります。「`ftp:`」はファイルをサーバーからダウンロードするときに使われます。「`mailto:`」は「`mailto:htanaka@w-university.ac.jp`」のようにして使われ、電子メール用のフォームが現れます。

WWW をブラウズしながら、「お気に入り」や「ブックマーク」の中に URL を登録していくとリストは長くなっていく一方です。こうした「お気に入り」のリストは編集できるので、きちんと整理しておく使いやすくなります。さらにリストは HTML 形式のファイルとして保存することもできますから、フロッピーディスクなどに保存しておけば、どこかに行ったときにもすぐに必要なサイトを見つけることができ大変便利です。

## 3. WWW ページの一部または全体を保存する

WWW ページのテキストはマウスで選択してワープロソフトなどに簡単にコピーできます。写真などの画像はマウスでクリック (Macintosh) または右クリック (Windows) してコピーしたり保存したりすることができます。また、インターネットに接続しなくてもページが見られるようにしたい時は、ページ全体を保存することができます。保存形式は HTML 形式かテキスト形式が一般的ですが、ブラウザーによってはサイトを画像やリンクも含めて丸ごと保存することができるものもあります。また、WWW サイトを丸ごと保存するためのフリーウェア (無料ソフト) もあります。

## 4. FTP とファイルのダウンロード

WWW にはフリーウェアやプログラムのバージョンアップがダウンロードできるページがあります。「XXXX をダウンロードするにはここをクリックしてください。」といったメッセージを見たことがあると思います。そこでクリックすると別のウィンドウが現れて、ダウンロードが始まります。このダウンロードのプロセスを FTP (File Transfe

r Protocol) と呼びます。FTP とはコンピュータからコンピュータへファイルを転送する方法のことを指します。

WWW サイトの中にはフリーウェアやシェアウェア（試した後で代金を後払いするソフト、金額は数百円から数千円程度）のダウンロードを主な目的としているものもあり、様々なソフトウェアを入手することができます。便利です。図 7.1 はその中の一つの Vector というサイトです。

図 6.1



## 5. 自分の WWW ページを作る

基本的な WWW ページの作成は二つの段階で行われます。一つめは HTML ファイルと其中で使われている画像ファイルなどの制作すること、そして二つめはそれらのファイルを WWW 用に用意されたサーバーへのアップロードすることです。

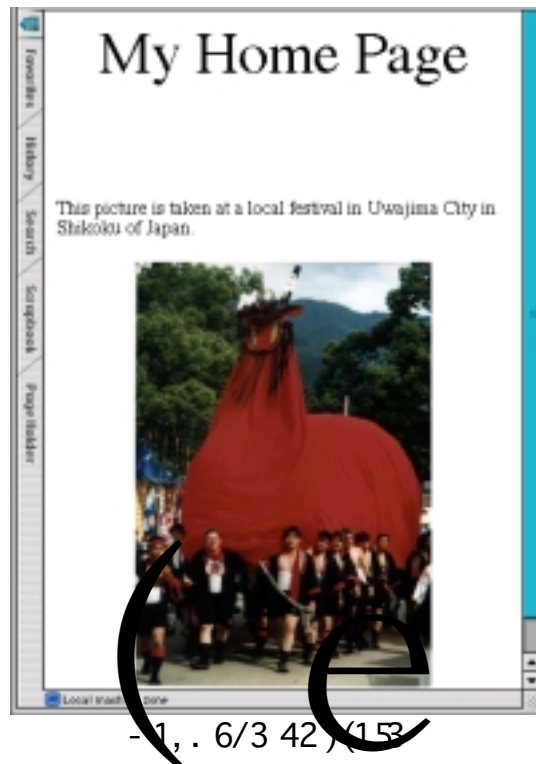
HTML ファイルの HTML というのは Hypertext Markup Language の略で WWW ブラウザーが理解するコンピュータ言語の名前です。テキストや写真を正しく画面に表示したりするための規則の集まりです。図 6.2 は HTML の簡単な一例で、それをブラウザで表示すると図 6.3 のようになります。「<」や「>」の記号の間に挟まれている部分を HTML タグと呼び、言語によって規定された仕事をします。数年前までは、WWW ペー

ジを作るためにはこの言語を勉強しなければなりませんでした。今は自動的に HTML 形式のファイルを生成してくれるソフトが出来ていて、HTML 言語を知らなくてもページが作れるようになっています。このような HTML エディタと呼ばれるソフトにもプロが使うような物からアマチュアが使うものまで、用途に応じて色々なものが出ています。

図 6.2

```
<HTML>
<BODY>
<CENTER><FONT SIZE=+4>My Home Page</FONT></CENTER>
<CENTER><FONT SIZE=+4></FONT></CENTER>
This picture is taken at a local festival in Uwajima City in Shikoku of Japan.
<P><IMG SRC="ushioni.jpg" BORDER=0 HEIGHT=520 WIDTH=360>
</BODY>
</HTML>
```

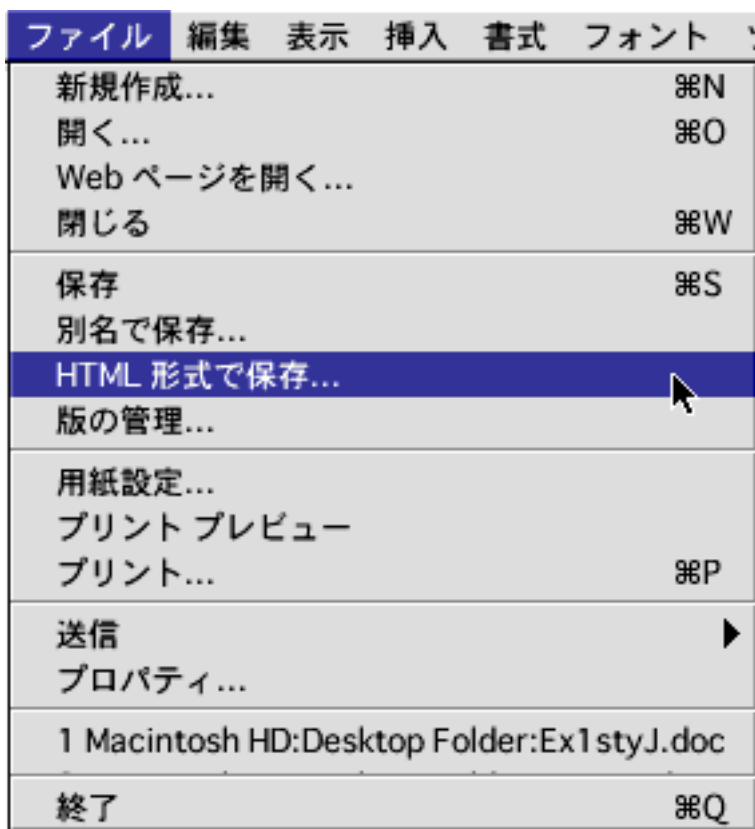
図 6.3



また、ワープロソフトの中にも HTML 形式でファイル保存が出来ようになっているものが多くなっています。図 6.4 は MS- Word でファイルを HTML 形式で保存している

ところでは。

図 6.4



本書では NetScape Communicator 4.7 の一部になっている NetScape Composer という HTML エディタを使って、WWW ページの作り方を説明します。このプログラムを選んだ理由は（１）無料であること、（２）基本的な機能に限られていること、（３）プログラムの中で HTML 言語が感じられること<sup>1)</sup>の三つです。

まず、NetScape Communicator 4.7 のファイルメニューから新規作成-空白ページの編集を選ぶと Composer の新しいページが現れると同時に Composer が起動して、メニューの項目が変わります。（図 6.5 参照）

図 6.5

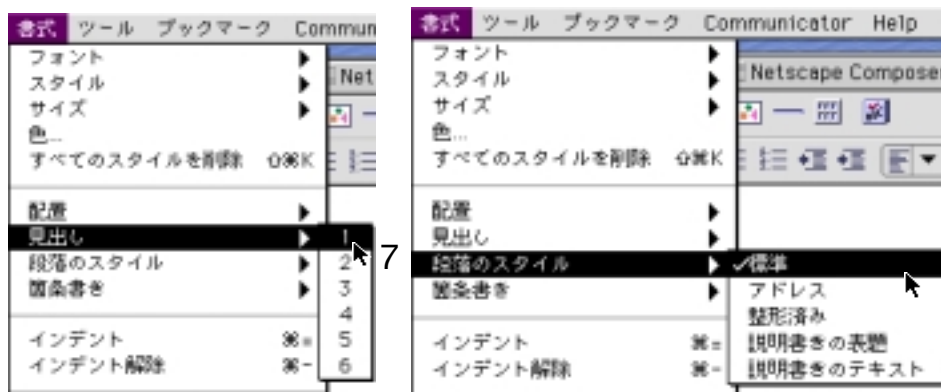
---

<sup>1)</sup> 簡単にページを作成するだけならワープロソフトを使って HTML 形式で保存すればいいのですが、それでは HTML の感覚が全くつかめなくなってしまいます。そこで、あえて HTML の感触が味わえる Composer を使うことにしました。



この段階はワープロソフトを使うのとそんなに違いはありませんが、いくつか WWW ページ作り特有のものがあります。その一つ目は書式メニューの中にある見出しと段落です。  
 (図 6.6) これはワープロソフトのスタイルシートのように機能します。例えば、見出しを 1 に設定するとその段落の文字は太文字になりサイズも大きくなります。(HTML は文字の大きさを 6 段階ほどで設定しています。) 見出しは下位にいくほど小さくなっていきます。段落のスタイルはワープロソフトとの違いは HTML によってあらかじめ決められていて、ユーザーが新しく作ることはできません。ですから、Composer の中での見出しや段落の書式の決め方に慣れておく必要があります。

図 6.6



次は「リンク」です。リンクはそこから他のページやサイトにジャンプするために必要なもので、WWW の中核的な機能です。リンクを張りつける文字部分を、まず、ハイライトして、挿入メニューからリンクを選びます。(図 6.7) 次に、リンク先のアドレス (URL) を入力する。(図 6.8)

図 6.7



図 6.8



絵の挿入は挿入メニューの画像を選びます。すると、図 6.9 のような画面が出てきますから、そこに画像ファイルの名前をタイプします。

図 6.9



ファイルを保存する時は名前の後に必ず「.htm」か「html」という拡張子をつけます。Composer にはよくできたヘルプ機能がついていますから、上手に利用してください。

では、Composer を使ってはじめての WWW ページを作ってみましょう。このページは簡単な日本語教育用のクリップアートのリンク集です。図 6.1 に似たものになるはずですが。

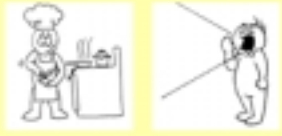
図 6.1





## 山田一郎のホームページ

### 日本語教育用クリップアート集のリスト



- [オレゴン大学クリップアートコレクション \(CAJLS Material archive Clip art collection\)](http://babel.uoregon.edu/CAJLS/Materials/clipart_list.html)

オレゴン大学のCenter for Applied Japanese Language Studiesで制作したクリップアート集 (白黒)。食べ物、スポーツ、天気などを表した絵が入っている。ページは英語。  
[http://babel.uoregon.edu/CAJLS/Materials/clipart\\_list.html](http://babel.uoregon.edu/CAJLS/Materials/clipart_list.html)
- [ライセンスフリー 語学教育用クリップアート \(Clip Art Collection for FL instruction\)](http://www.sla.purdue.edu/fl1/JapanProj/FLClipart/default-j.html)

パデュー大学日本語学科で制作した語学教育用クリップアート集 (白黒)。動詞と形容詞は品詞別、名詞は建物、スポーツ、食べ物、人と動物、物とイベント、時、乗り物などに分けられている。白黒。ページは日本語と英語。  
<http://www.sla.purdue.edu/fl1/JapanProj/FLClipart/default-j.html>
- [絵教材 \(Free Downloadable Visual Aids\)](http://www.nihongoweb.com/Siryoo/VisualAids/index.html)

プロのアーティストが描いている日本語教育用のクリップアート集 (白黒)。動作を表す絵、多量。季節を表すアートもある。ページは英語。  
<http://www.nihongoweb.com/Siryoo/VisualAids/index.html>
- [日本語教師用イメージデータベース \(Image Database for Instructors of Japanese\)](http://www.iac.gatech.edu/modlangs/Japanese/CONJUGATE/index.html)

ジョージア工科大学日本語学科で制作した日本語教育用アート集 (カラー)。環境、挨拶、短いフレーズ、禁止、許諾、天気、感情などに分けられている。ページは英語。  
<http://www.iac.gatech.edu/modlangs/Japanese/CONJUGATE/index.html>
- [日本語動詞の絵カード \(Picture cards for Japanese verbs\)](http://home.hiroshima-u.ac.jp/mizumat/pictcards_j.html)

(Ch6Example2.htm)

ステップ 1: 下にクリップアートを提供している WWW サイトを五つ選びました。(英語と日本語のサイトが含まれています。) まず各サイトを行って、それぞれの簡単な説明を書いてください。(対象になる人は日本語の教師と考えて下さい。)

1. [http://babel.uoregon.edu/CAJLS/Materials/clipart\\_list.html](http://babel.uoregon.edu/CAJLS/Materials/clipart_list.html)
2. <http://www.sla.purdue.edu/fl1/JapanProj/FLClipart/default-j.html>
3. <http://www.nihongoweb.com/Siryoo/VisualAids/index.html>
4. <http://www.iac.gatech.edu/modlangs/Japanese/CONJUGATE/index.html>
5. [http://home.hiroshima-u.ac.jp/mizumat/pictcards\\_j.html](http://home.hiroshima-u.ac.jp/mizumat/pictcards_j.html)

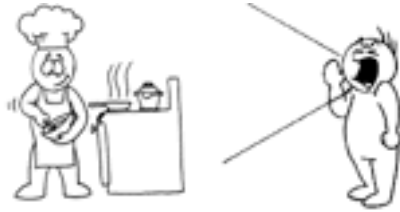
ステップ 2: Composer から空白のページを選び、「<自分の名前>のホームページ」とタイトルをつけて下さい。

ステップ 3: 上の五つのサイトの名前と説明を含んだリストを作って下さい。

ステップ 4: リストにリンクをつけて、それぞれのサイトに行けるようにして下さい。

ステップ 5: 最後に次の二つのサンプルクリップアートを挿入して下さい。この絵は以下の URL で見られます。

図 6.11



(cook\_small.gif, call\_small.gif)

絵のファイルははじめに保存しなければなりません。その時、絵のファイルを HTML ファイルが入っているのと同じディレクトリ（またはフォルダ）に入れて下さい。

## 6. HTML ファイルと画像ファイルをアップロードする

HTML ファイルの編集が終わったら、次はそのファイルとそのファイルが必要としている二つの画像ファイルを WWW サーバー上の自分に割り当てられたスペースにアップロードします。WWW のホームページを「自分の店」にたとえると、サーバー上のスペースはテナントとして借りている店舗スペースでサーバーの持ち主である大学や ISP は「大家」ということになります。URL はその住所です。WWW 上のスペースはお客さんは自由に立ち寄れますが、内容を変えられるのは持ち主のユーザーだけですから、そこにファイルをアップロードするためにはユーザー名とパスワードが必要です。


前述したようにファイルの転送はダウンロードもアップロードも FTP と呼ばれるほうほうで行われます。FTP を行う方法には何種類かありますが、そのもっとも、オーソックスな方法は FTP ソフトを使うことです。代表的なソフトには FFFTP (Windows FTP (Windows)、Fetch (Macintosh) などがあります。また、Windows 2  の場合はマイネットワークというフォルダの中に自分の WWW スペースをフォルダとして作ることができます。こうしておけば必要なファイルをそのフォルダの中にコピーするだけで FTP が完了します。そして、ISP の中には FTP 用の WWW ページを作ってブラウザから FTP ができるようにしているものもあります。どの方法を使っても、WWW サーバー名（ホスト名）とユーザー名とパスワードは必ず必要です。

図 6.12 と図 6.13 は FTP ソフトの画面です。図 6.12 のようにウィンドウが二つある場合は、一つは自分のコンピュータのハードディスクの内容（ローカルファイル）を表示し、もう一つはサーバー上の自分のスペースの内容を表示します。ファイルをコピーする形でアップロードしたりダウンロードしたりします。また、図 6.13 のように、ウィンドウが一つしかない場合はサーバー上の自分のスペースの内容だけを表示しています。

図 6.12

(日本語版の FTP ソフトのスクリーンを挿入する)

図 6.13 Fetch J のスクリーン



WWW サーバーに接続するとユーザーのスペースに存在するフォルダやファイルが画面上に現れます。通常その中のフォルダの一つが WWW 用に割り当てられています。「public\_html」、「WWW」、「html\_pub」などフォルダの名前はサーバーによって違いがあるようですから、確認して下さい。ISP の場合は契約時にフォルダの名前を知らせてきているはずですが、学校など組織の場合はコンピュータの管理者に確認する必要があります。そのフォルダの中に、HTML ファイルと画像ファイルをアップロードします。アップロードは「put」や「送信」と呼ばれることもあります。またアップロードするファイル形式に選択肢があるときは、「バイナリ (binary)」という形式を選んでください。

こうして、アップロードされた HTML ファイルは世界中どこからでもその URL を入力すれば呼び出すことができるようになります。この場合の URL は <http://www.jnet.ne.jp/~iyamada/MyHomepage.htm> といった具合になります。「~」はユーザー名の前によく使われます。

では、上で作った三つのファイルのアップロードに挑戦してみてください。多少苦勞はするかもしれませんが、思っていたよりも簡単にできてしまうはずです。

## 練習問題

1. 自分で興味がある分野に関して WWW 検索をしてサイトをいくつか選び、それぞれに簡単な説明をつけなさい。それを基にして、本章で作ったような HTML ファイルを作り、自分のサイトにアップロードして、WWW で閲覧できるようにしなさい。分野を選ぶときはできるかぎり狭い範囲で特定のことに「こだわった」リストを作るようにしてみなさい。
2. キーワードを一つ選んで、複数の検索エンジン (Yahoo, Lycos, Excite など) を使って、その結果を内容的な違いや結果の表示の仕方の違いなどに注目して比べなさい。
3. 自分で使っている「お気に入り」や「ブックマーク」を編集機能を使って、整理し

てディスクに保存しなさい。そして、そのファイルを他のコンピュータのブラウザで開けてみなさい。

4. WWW ページを違った保存形式で保存しなさい。出来たファイルをブラウザとワープロソフトを使って開き、結果を比べなさい。
5. 数多くのフリーウェアやシェアウェアが入手できるようになっているサイトに行って、ファイルのダウンロードを試しなさい。例えば、WS\_FTP(Windows) や Fetch(Macintosh) などの FTP 用のソフトがダウンロードできます。下の二つは代表的なサイトです。  
窓の杜 (Windows) <http://www.forest.impress.co.jp/>  
林檎の杜 (Macintosh) <http://www.forest.impress.co.jp/lingo/>
6. 次の要素が入った自分の履歴書ページを作りなさい。(1) 写真(自分の写真じゃなくてもかまいません。) または画像、(2) いろいろなレベルの見出し、(3) リスト、(4) リンク。内容的には履歴、仕事の経験、仕事に関する興味。パーソナルページは別の HTML ファイルにしてリンクしなさい。
7. 次のうちどれか一つを選んで、リソース型の WWW ページを作ってみなさい。(1) 日本の文化・生活に関するものトピック、(2) 日本語という言葉に関するトピック、(3) 日本語教育・外国語習得など研究に関するトピック。トピックを選ぶときは出来るかぎりせまい範囲のものを見つけるようにしなさい。
8. HTML では表を作ることができ、Composer もこの機能をサポートしています。各セルにはテキストだけでなく画像を入れることもできます。また、リンクをつけることができるので目次のように使えます。表を自分のページの中で使ってみなさい。

図 6.14

